

「タイ・フィールド調査参加報告書」

京都大学経済学研究科 1 年 (丸田夏実)

① 学習成果

今回は多様性をどう受け入れるかをテーマの一つとしてタイのフィールド調査に参加した。東南アジアの人々は地理的には近いが、互いの考えの相異のために差別意識が強いことがわかった。特に中国人と現地の人々の確執が浮き彫りとなった。このフィールド調査の後に台湾に行ったが、台湾は多民族国家であり、主にオランダや漢民族や日本に支配されながらも多様性を受け入れ、「台湾を愛する者はみな台湾人である」としていた。確かに異なる文化やルールを持つもの同士が一緒に住むのも大変かもしれないが、お互いを受け入れ、試行錯誤しながら不足分を補い、新しいものを創っていく過程を台湾では垣間見ることが出来た。タイではまだそこまで至っていないのかもしれない。日本に帰ってきてすぐタマサート大学の元学長から講義を賜ったが、彼は「タイの法制度は50年にわたってほとんど何も変わっていない。成功している国は多様性を受け入れている。我々は革命を起こすヒーローを必要としている。」と言っていた。あるエジプトの学者は「政府は全ての多様な人間を受け入れるためには secular である必要がある」と言った。また、台湾で出会ったあるマレーシア人（中国系）の女性は「正しいことがされなかった（人種差別のような）時には声を上げてそれを正さねばならない。その意識を身につけるためにも教育は大切である。しかし教育を施す政府の強い力が良い方向に働かなければ意味がない」と述べていた。今後日本も移民を受け入れることになるかもしれないが、様々な問題が出てくるであろうし、対処するのに時間もかかるかもしれない。

また、タイの人々の仕事や人生に対する考え方についても分析してみた。タイに行き行って感じたことだが、市民自体に「今後どうありたいか」という考えが抜けているように思われた。日本と比べてタイの人々は同じくらい親切であったが、現時点の生活で満足しているように見られた（私たちは限られた分野の職場しか訪問出来ていないので一概には言えないが）。タマサート大学で受けた講義の中で最も印象に残っているのはタイの歴史である。タイでは今でも君主制と軍事の力が強く、ほとんど以前と変わっていないように思われた。タイの人々はよりクリエイティブに自分達の抱える問題の本質を見る必要がある。そのためには先に述べた目標や夢といった長期的に人々を動かすことが出来る指針を与えることが政府に求められるであろう。

人材、エネルギー資源、技術など様々なものが不足しているタイでは周りの国からの支援が必要不可欠である。移民・宗教・貿易問題など国と国が関わり合うことが多くなっていく中で、私たちに出来ることは損得勘定ではなく、より世界的に平和的に考えることではないかと思う。

② 海外での経験

学部時代に北京に1カ月程中国語を勉強するため短期留学したことがある。

③ プログラム内容

バンコクにおいて、午前中は主にタマサート大学でのレクチャー、現地の学生と興味のある分野のプレゼンテーションを行い合う、アユタヤ巡り、プーケットでは農園や工場の見学、会社訪問は一社のみ（イオン）。

④ 進路への影響

多様性をどのようにマネジメントするか、多様な人材をどう生かしていくかについて今後さらに研究を深めたいと思っている。